どうする北方領土　－歴史に学び現地から考えた－

コース・専攻：国際交流・協力
グループ名　：どうする北方領土
メンバー：奥平武則、上杉純子、 川東伸光、小山一良、立溝江三子、西川正知、長谷川日佐子
長谷部幸三、藤本末子、松山清治、吉田秀子

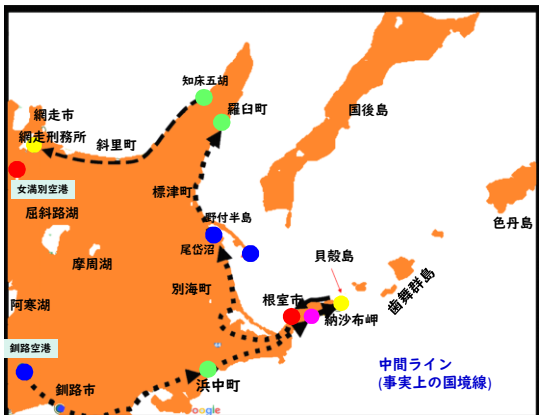
私たちは日本の国境問題に関心を持ったメンバー11 人(男性６名、女性５名)で活動しました。

【テーマ選定理由】　日本は海洋国家で海を隔てて他国と接することから、３つの島群を巡って他国と紛争を抱えています。我々がカレッジで講義を受けているさなか、2022.2.24 に突如としてロシアがウクライナへ軍事侵攻して、大きな衝撃を受け、日本の北方領土にターゲットを定めて考えることにしました。

　また、北方領土では兵庫出身の高田屋嘉兵衛や工楽松右衛門が活躍し、郷土出身者がどう関わっていたのかとか、北方領土は昆布の大生産地であり、その昆布が日本の食文化や明治維新に大きく関わっていたこと等をもっと深く調べたいと考えました。

【学習のプロセス】　**事前調査**として、①北方領土問題の歴史　②日露経済・民間交流事業　③国民意識　④北方領土隣接の地域振興策　④北方領土隣接地域の観光業・水産業　を皆で分担して調査し議論しました。①～④を念頭において**現地調査**(フィールドワーク)後**全員で議論**し**まとめ**としました。

【現地調査(フィールドワーク)】



　2023 年 7 月 4 日から 8 日まで、北方領土隣接地域をレンタカーに分乗して回りました。右図の釧路空港から納沙布岬へ行き歯舞群島(貝殻島、水晶島)を臨み、根室地域振興局、別海町語り部、網走刑務所を訪問し各地にある北方領土啓発施設を訪問しました。観光地としては、オシンコシンの滝、風連湖、尾岱沼、羅臼展望台、知床五湖の大自然に癒され、北海グルメ(花咲ガニ、北海島エビ、大ホタテ等)を満喫しました。

　ハイライトは北方領土の元島民(歯舞群島の志発島出身　89 歳)の方から、これまで誰にも語らなかった生の声を聞けたことでした。小学 3 年生時、ロシア兵侵攻の話を聞き「死ぬもんだと思っていた。ロシアに殺されるなら親に殺してもらう、ロシアが悪いのではない戦争が悪い、子や孫の世代には戦争に入って欲しくない」の言葉が胸に突き刺さりました。

【まとめ】ロシアによるウクライナ軍事侵攻以後、日本とロシアは「冬の時代」であるが、交渉の機会は必ず訪れるものと信じて、その時に備えて平和的な交渉で解決する覚悟を持って準備を怠らないことである。そして、この問題を風化させないためには、私たちの子や孫の代にまで伝え聞かせて伝承することである。　KSC 学生の皆様への提案として、下記お勧めします。

① 北海道東部地域を旅して、大自然とグルメを満喫して、北方領土を臨んで欲しい。
② 北方領土沿岸は、昆布の大生産地です。美容と健康に昆布をたべよう。